

ぶらり ミュージアム

県立博物館

月と兎うさぎの浅からぬ関係を背景とした作品で、満月の下、兎は小川のほとりに描かれている。その姿は特徴的で、背をまるめ左前脚で左耳を折り曲げており、赤い目が印象的だ。



構成に緊張感 赤い目 印象的

月下兎図
げっかううさぎず

自身を食料としてささげるため、火に入った兎の話が『今昔物語集』に収録。起源はインドの仏教説話で、火に入った兎を人々に見せるため、兎は月に移されたとする。確かに月には兎がいるように見える。

この作品は、月から兎が舞い戻った場面だろうか。作者の是真ぜしんが得意とした緊張感のある構成と描写に加えて、何か話が付随しているようにおもわれる。10代佐賀藩主鍋島直正の側近、古川松根(1813~71)の旧蔵品で、松根が墨書した箱に収められている。

是真は江戸両国の生まれで、幕末から明治に絵師、蒔絵師として活躍した。松根は是真に写生画を学んでいる。

(県立博物館 福井尚寿)

23 佐賀市城内1の15の
 3947。電話095224の
 「博物館前」下車、バス停
 歩1分。開館は午前9
 時半。午後6時。休館
 日は月曜。

柴田是真(1807~91)
 作/1幅/法量122.8㌢
 ×54.4㌢/紙本墨画淡彩
 /掛幅装/江戸~明治19
 世紀/県立博物館所蔵/
 常設展「佐賀県の歴史と
 文化3」で展示中(10月
 30日まで)